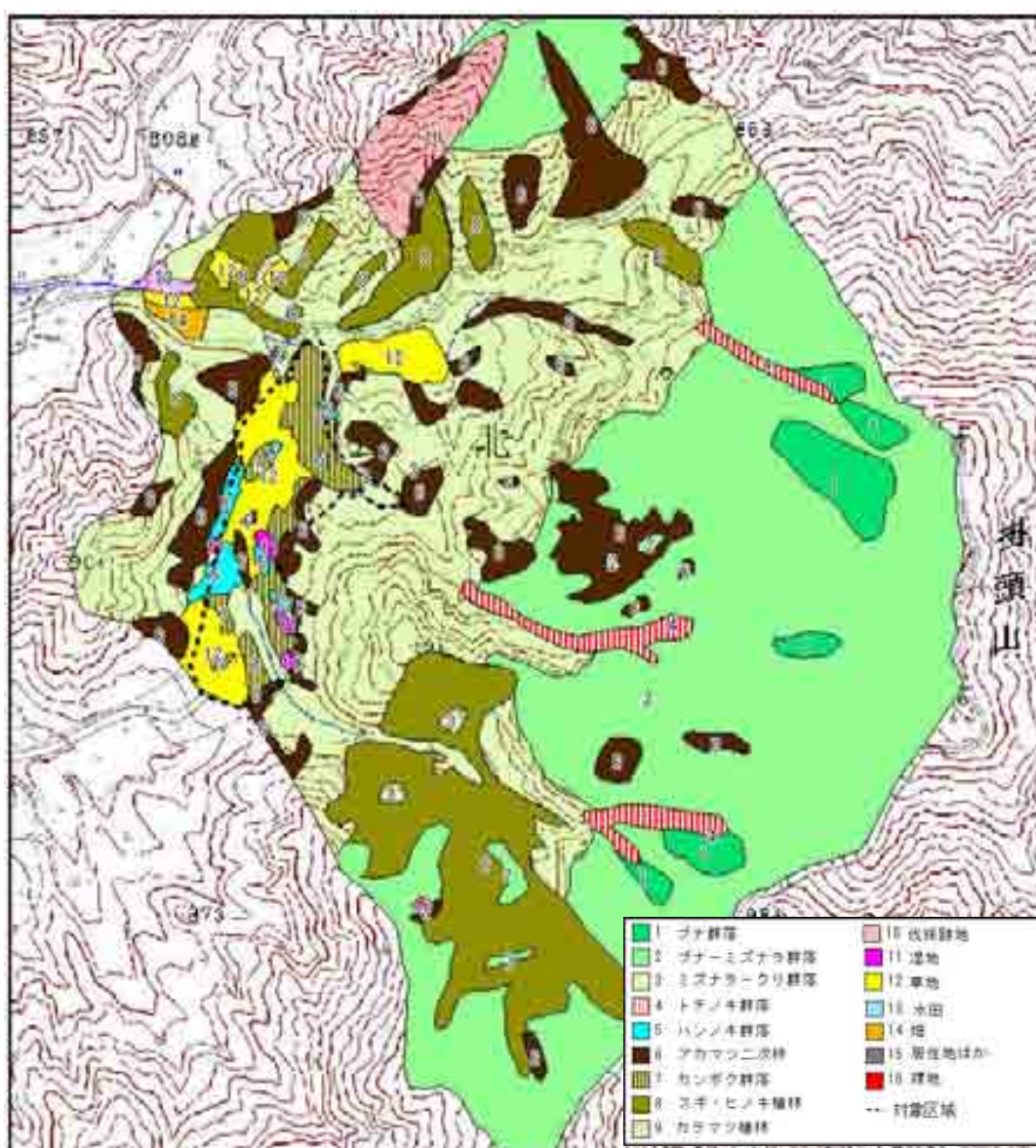


(3) 植生

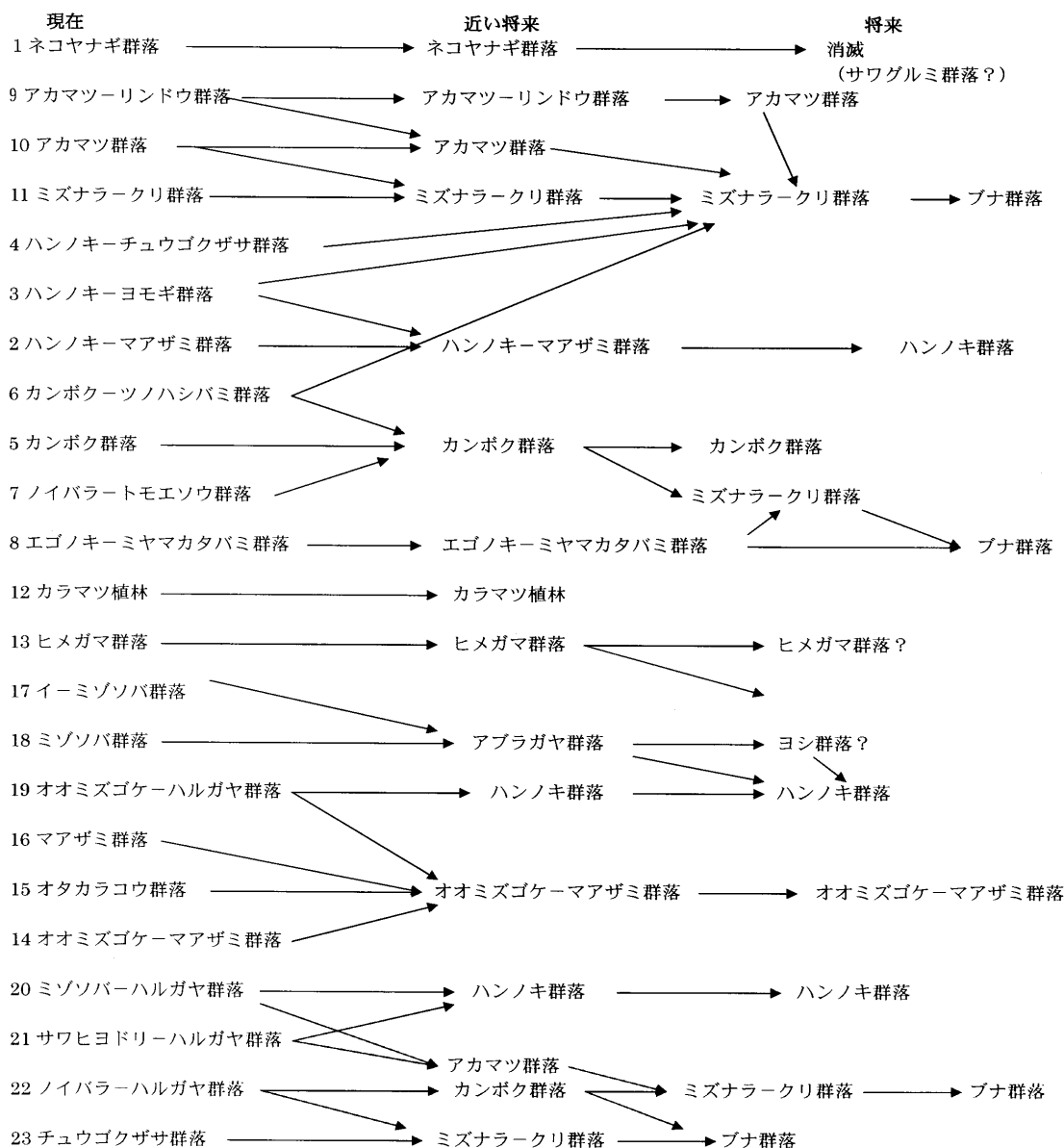
- 対象区域の潜在自然植生は全体的にブナ群落で、流路および湿地周辺はハンノキ群落と考えられる（鈴木 1986）。
- 周辺地域（掛頭山西斜面を中心とする対象区域の集水域）の植生は図 3 - 3 のとおりである。概ね標高 900m 以上はブナ - ミズナラ群落，標高 900m 以下はミズナラ - クリ群落を基調とし，部分的にアカマツ二次林やスギ・ヒノキ植林等が見られる（広島県 2004）。



出典：広島県芸北地域事務所，臥竜山麓自然再生事業推進計画調査業務報告書，平成 16 年 3 月（一部修正）

図 3 - 3 集水域の植生図（平成 14 年）

- 対象区域における植物群落の遷移系列は図 3 - 4 のとおりである。自然の植生遷移に任せただけの場合、湿原は概ねハンノキ群落やオオミズゴケ - マアザミ群落へ、草地・灌木林はカンボク群落やアカマツ群落を経てミズナラ - クリ群落へ遷移し、周辺地域のミズナラ - クリ群落に同化していくものと考えられる（広島県 2004）。



出典：広島県芸北地域事務所・臥竜山麓自然再生事業推進計画調査業務報告書・平成 16 年 3 月

図 3 - 4 対象区域の植生遷移系列

- 対象区域においては、乾燥化や草地化が進行した部分に可能な限り湿地を再生するほか、現在良好な湿地が残っている部分については適切な管理を行い、オオミズゴケ - マアザミ群落等を目標植生として遷移を誘導する必要がある。

(4) 鳥類

- 対象区域はブナ林の存在する臥竜山や掛頭山に隣接するとともに、湿原の森林化が進行しているため、森林性の種が多く見られる現況にある。対象区域は鳥類の生態上、周辺の森林と密接な関係にある。一方で、湿原の再生により、本来の草原性の種の復元が期待される。
- 対象区域および周辺地域は渡り鳥の中継地として重要である。

(5) 両生類

- 対象区域にはカスミサンショウウオやモリアオガエルの生息が確認されている。これらの種は幼生は水域、成体は森林に生息し、水域と森林がまとまった環境が必要である。特に対象区域境界沿いの林縁部の湿地は重要であり、対象区域と周辺地域とのつながり（エコロジカルコリドー）を保全・再生する必要がある。



平成 16 年 4 月 23 日撮影
写真 3 - 1 カスミサンショウウオ(卵塊)

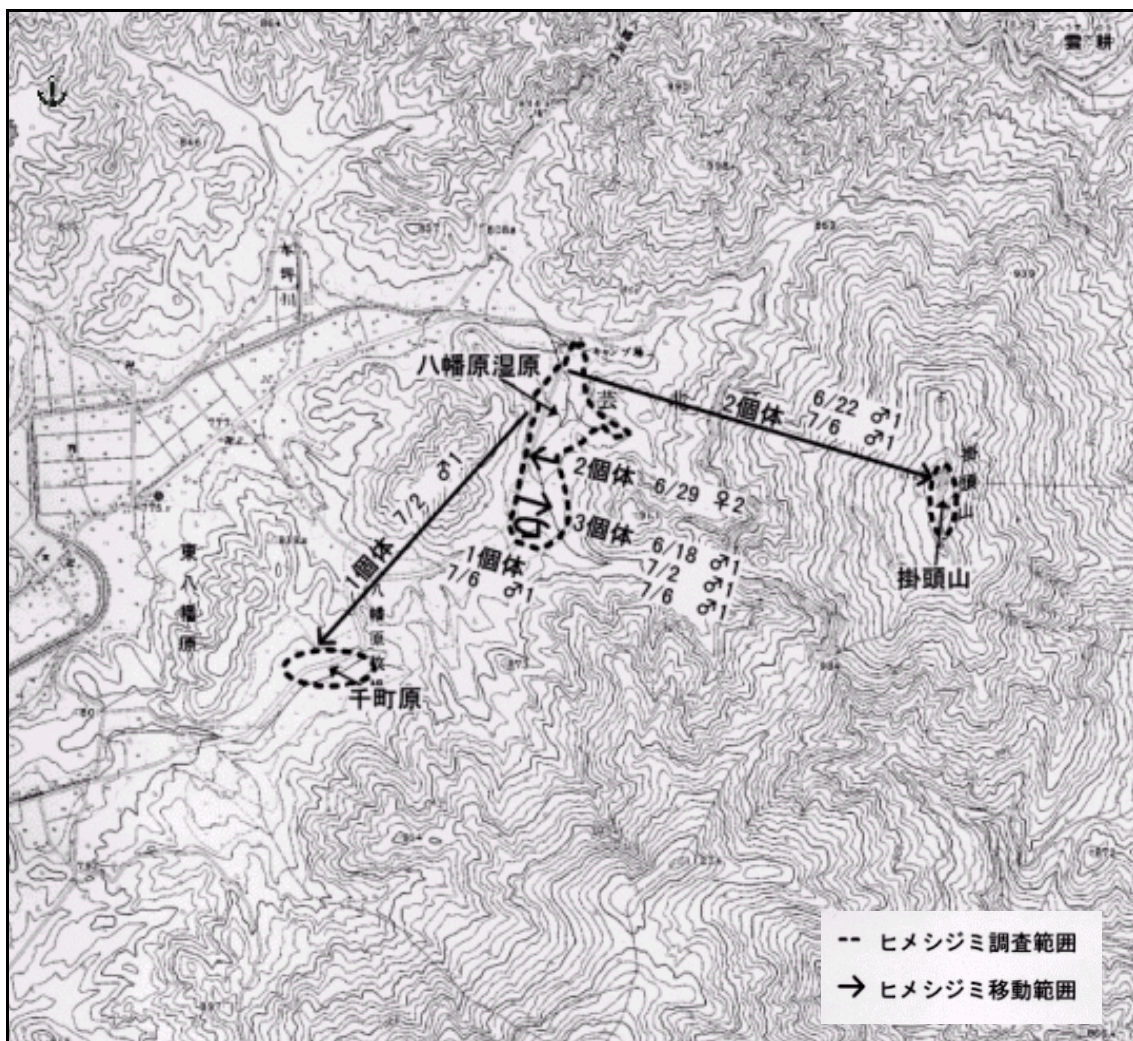


平成 16 年 4 月 23 日撮影
写真 3 - 2 カスミサンショウウオ(成体)

(6) 昆虫類

- 八幡地区は高冷地であるため、広島県では貴重な北方系の種と南方系の種が混在している。
- 対象区域は森林に囲まれた湿原・草地という環境にあるため、湿原性や草原性の種に加え、森林性の種が見られる。また、水環境も湿原・水たまり・溪流・水路と多様な環境があり、それに応じた多様な種が見られる。
- このことは、種のライフステージの中での各環境間の往来や、各環境の変遷部（エコトーン）をハビタットとするもの（一例として湿原と森林のエコトーンとしてのハンノキ林とそれを食樹とするミドリシジミ）など、対象区域と周辺地域は種の生息基盤として相互に密接な関わりをもっている。

- 平成 17 年度に行われたヒメシジミのマーキング調査においては、対象区域に生息する個体が千町原や掛頭山も活動範囲としていることが確認された。このことから、対象区域と周辺地域の広い範囲でメタ個体群が形成されていると考えられる。(図 3-5 参照) 対象区域の環境を維持することはヒメシジミのメタ個体群を維持する上で重要である。対象区域外についても、協議会等によりモニタリングを実施する予定である。



出典：広島県芸北地域事務所．臥竜山麓自然再生事業推進計画調査業務報告書．平成 17 年 3 月

図 3-5 ヒメシジミ移動範囲

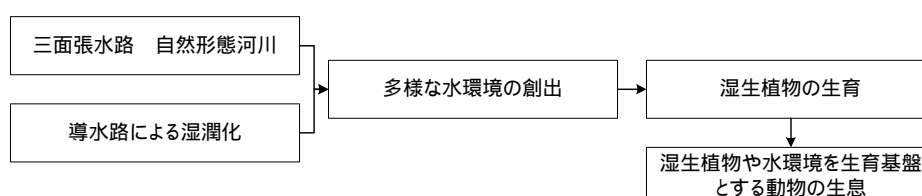
3 - 2 . 自然環境保全上の意義及び効果

八幡湿原における自然再生事業は、自然再生推進法の趣旨である過去に損なわれた生態系その他の自然環境を取り戻し、生物多様性の確保を通じて自然と共生する社会の実現を図り、あわせて地球環境の保全に寄与することを目的とするものである。さらに、湿原という特色のある貴重な自然資源の再生・保全について様々な主体が地域に根ざした活動を協働により積極的に展開することにより、私たち共通のものとしてかけがえのない財産の価値を高めるとともに、人々の交流や環境教育などそれによって生まれる地域への様々な波及効果も期待しながら、これを次世代に継承していくことを目的とするものである。

このような目的を持つ八幡湿原における自然再生事業の自然保全上の意義及び効果を整理すると、次のようになる。

生育・生息基盤の創出

- コンクリート三面張りの人工的な水路を見直して自然形態の河川とするとともに、湿潤化して湿原を再生することで、溪流・小川・池沼・水たまり・湧水・湿地等とそれらの間に生じるエコトーンによる、多様な水環境が創出される。
- 多様な水環境を創出することにより、これに適応した様々な湿生植物が生育する。また、これらの水環境や植物群落を生育基盤とした動物の生息が促進される。



自然生態の保全

- 自然度の高い臥竜山、掛頭山の麓にまとまった面積をもつ湿原を再生することにより、流水や止水等の水環境と森林・湿原・草地在まとまった動植物の新たな生育・生息環境が創出される。
- 新たな生育・生息環境の創出により、周辺地域との関わりの中で、生態的回廊（エコロジカルコリドー）や踏み石ビオトープが形成される。また、このことによりメタ個体群の形成が図られ、遺伝子の多様性が促進されるとともに地域個体群の絶滅が回避される。

